

共同研究グループ活動報告（2010年度）

日中関係史

10年度の活動は、関連する内容のうち、プランゲ文庫と東アジア、中国人日本留学史については共同研究奨励助成の方で、中国における日本租界については非文字史料研究センターの方で研究会かシンポジウムを開いたため、独自に開いたのは下記の講演会のみであった。

7月14日 池上正治氏（作家・翻訳家）「徐福伝説—その実像に迫る」

いつも反省ばかりだが、個別テーマによる研究とは別に多彩な内容による面白い企画を次年度は開拓したいと思う。

（大里浩秋）

文化のかたち

活動内容：

当共同研究グループは、2011年度の叢書（課題名「グローバル化の中の日本文化」）刊行を目指して、メンバー各自が自身の研究テーマで調査・考察活動を進めている。

昨年9月と今年1月にニューズレターを配布した。

2011年1月7日（金）に研究会を開催し、叢書のタイトルと2名の編集委員を決定し、会員相互の結束を確かめ合いながら、来年度の叢書に各自の具体的な成果が反映されるよう執筆活動を進めることなどを確認した。

（水野晴光）

各国地方史の比較的研究

1. 研究テーマ：世界史を、国家、民族、文明というレベルで考察するのではなく、地方史のレベルから見直すこと。
2. 代表：村井寛志

3. 活動内容：

今年度は研究会を開くことができなかった。次年度以降の方針も含め、検討したい。

（村井寛志）

東アジア比較文化研究会

1. 講演会

10月27日（水） 17号館 216教室 小峯和明（立教大学教授）

演題「琉球と異文化交流—薩摩の琉球侵略前後をめぐる」

2. シンポジウムの開催計画

台湾大学との学術交流協定が締結されたのを機に、次年度には国際シンポジウムの開催を検討中である。

3. 代表世話人の交替で、なにかと慣れないことが多く、本年度の活動は、講演会を後期一回開催するにとどまり、低調に終わった。講演内容については、本研究会のテーマを明確化するため、沖縄における異文化交流に焦点化した。次年度に開催を予定している国際シンポジウムの立案検討を通して共同研究のメンバー相互の意思疎通を積極的に図って行きたいと考えている。

（深澤 徹）

色彩と文化

今年度、共同研究奨励助成金グループ「世界の色の記号に関する実証的研究」の3年間の活動成果を論文集にまとめ人文学研究所から「叢書」として出版する事になった。

今年度は叢書の発行に専念し、それ以外の活動は休止している。

（三星宗雄）

言語変異研究

1. 研究内容：言語と社会の関係に関する総合的

な研究、今年度は主に色彩語と社会の関係に関する調査研究を行った。

2. 学会発表：

テーマ：現代中国語の色彩語とメタファー—
下位概念化の認知意味論的考察

日時と場所：2010年11月14日 日本中国語
学会第60回大会 神奈川大学)

3. 2011年度は言語政策について調査する予定である。

(彭 国躍)

プランゲ文庫研究会

本学図書館が所蔵するプランゲ文庫の新聞・雑誌コレクションの共同研究を目指す本研究会は、2009年に学内奨励研究に採択され、「プランゲ文庫とアジア」に関連する研究会を積み重ねている。2010年には合計5回の研究会を開き、2011年3月にはアメリカのワシントン・NARA（国立公文書館）の資料調査を行う予定である。研究会の例会は、下記の通り開催された。

第1回（2010年5月19日）

報告：

1. 『亜洲世紀』と中国の日本研究（孫安石・神奈川大学）
2. 今後の日程について

第2回（2010年6月21日）

報告：

1. 戦後中国のメディア空間の紹介（中村元哉・津田塾大学）
2. グローバルヒストリーの中の中国経済史（村上衛・横浜国立大学）

第3回（2010年10月20日）

報告：

1. 解放空間、南朝鮮と在日朝鮮人（尹健次・神奈川大学）
2. 今後の日程について

第4回（2010年12月4日）

報告：

1. 「1920—1930年代における中国留学生の日本見学旅行」
—彼らは何をみたか、また彼らに何をみせようとしたか（見城悌治、千葉大学）
2. 今後の日程について

第5回（2010年12月15日）

報告：

1. 「戦後の華僑社会」（菅沼若菜・神奈川大学大学院）
2. 「プランゲ文庫中の華僑資料」（大里浩秋・神奈川大学）
3. 今後の日程と2011年2月の合宿（予定）
(孫安石)

表象文化研究会

2010年度は、3人の新会員を迎え、次の叢書発行や共同プロジェクトに向けての統一テーマを模索するべく、下記のとおり研究会を開催した。

第1回研究会

日時 7月28日（水） 16：30～18：30

場所 17-216 人文学研究所

発表者 ① 村井まや子（神奈川大学外国語学部
准教授）

「物語の手触り—鴻池朋子による
『赤ずきん』の視覚的表象」

② 鈴木陽一（神奈川大学外国語学部
教授）

「中国の18世紀におけるリアリズム—
図像の読解の試み」

第2回研究会

日時 9月29日（水） 16：00～18：00

場所 17-216 人文学研究所

発表者 ① 土屋和代（神奈川大学外国語学部
助教）

「アメリカの福祉権運動と人種、
階級、ジェンダー」

- ② 熊谷謙介（神奈川大学外国語学部助教）
 「世紀末絵画における『デザイン』
 という思想—ゴッホ、ナビ派
 を中心に」
 （山口ヨシ子）

活字文化研究会

本研究会では今年度も日本語学習者の視点から日本語の活字文化に対する意識について調査を継続して行った。具体的には、海外日系人協会の協力のもと南米諸国での日本語継承教育の現場において、また、国際ロータリークラブの協力のもとアジアの日本語教育機関において、それぞれ日本語書籍の提供を通じて、学習者による書籍の活用と学習効果などについて把握を行った。

なお、これらの日本語書籍については、産学連携事業に基づく協力により、ブックオフコーポレーション(株)よりご提供いただいている。
 （松本安生）

モダリティ研究プロジェクト

活動内容

研究会、ワークショップの開催を通じて、グループの研究テーマ、「言語の個別性と普遍性—文と発話の構造」について議論を深めることを目的としている。今年度は特に、「話者」とモダリティ現象の関わりが顕著な日本語の研究・教育の分野で活発な議論ができた。また、過去2年のモダリティと語用論、モダリティと統語論をテーマとした研究成果をまとめた報告書の出版準備中である。

研究会

- (1) 開催日：4月27日（火）
 発表者：文彰鶴 「推量形式に関する日韓対照研究」
 (2) 開催日：12月21日（火）
 発表者：相原昌彦 Richness of CPs and Licensing of Wh-phrases in Japanese
 「モダリティ・プロジェクト ワークショップ 2010」

—モダリティ研究と言語教育

- 開催日：7月24日（土）
 会場：神奈川大学横浜キャンパス1号館804
 発表者：砂川有里子（筑波大学）「文法形式に見られる話者の関わり」
 アンドレイ・ベケシュ（リブリャーナ大学）「談話から見た推量的モダリティの呼応：その動機付けと日本語教育への応用の可能性」
 黒沢晶子（山形大学）「[てしまう]のモダリティ性と日本語教育における課題」
 彭国躍（神奈川大学）「推量モダリティの文脈依存性に関する日中対照研究」
 堤 正典（神奈川大学）「ロシア語におけるモダリティとアスペクト—日露対照研究とロシア語教育の観点から—」
 久保野雅史・佐藤裕美（神奈川大学）「英語法助動詞の諸相と英語教育」
 文彰鶴（神奈川大学）「推量形式に関する日韓対照研究—韓国語教育的な観点から—」

グローバルズムに伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究

2010年度は、メンバー各自の研究対象において、調査・分析・研究成果発表を行った。

海外では、中国・台湾・ドイツ・ハンガリーにおいて言語政策ならびに言語教育政策の調査を実施した。国内では、神奈川県内を中心に調査を進め、2010年6月19日に、市民グループ「共生のまちづくりネットワークよこはま」との共催により、シンポジウム『グローバル化する大都市横浜と外国人市民への行政サービス—市内全18区役所を対象とした外国人市民への窓口サービス実態調査から—』を開催した。2011年度は、国内外の調査を継続するとともに、各自の成果報告を重点的に行う予定である。

なお、本研究会の活動は、2009年度より神奈川大学共同研究奨励助成に採択されている。
 （富谷玲子）

〈身体〉とジェンダー

〈身体〉をめぐる事象をジェンダー・近代性・権力といった軸で考察していく。

本年度は出版にむけての研究会を行った。仮の叢書題名は、『〈悪女〉と〈良女〉をめぐる身体表象』（青弓社で出版予定）となっている。

第1回研究会（2010年7月14日：人文研究所資料室）

報告者：熊谷謙介（外国語学部助教）

「踊る女の両義性：19世紀フランスにおけるサロメの表象を中心に」

第2回研究会（2011年1月12日：人文研究所資料室）

報告者：前島志保（本学講師）

「身体・ジェンダー・エスニシティ：戦間期大衆婦人雑誌に表象された帝国日本の近代性」

（笠間千浪）